

中野市行政改革推進委員会 会議録

日 時	平成28年 7 月20日（水） 14：01～15：58
会 場	市役所本庁舎 31・32号会議室
出席者	【委員】 工藤二六子、宮澤厚子、山口和彦、小山むつ子、清水一夫、岡村郁子、下田正人、東英司、小林千枝、小林日出夫、市村義明、湯本一、鈴木洋二 【市】 副市長、総務部長、健康福祉部長、子ども部長、くらしと文化部長、経済部長、建設水道部長、消防部長、豊田支所長、会計管理者、教育次長、議会事務局長 【事務局】 政策情報課長、行政管理係長、市川副主幹、矢野主事、青木主査
欠席者	なし
次第	1 開会 2 副市長あいさつ 3 会長、副会長の互選について 4 会議事項 (1) 第3次中野市行政改革集中改革プランの平成27年度実績について (2) 行政改革、その他市政運営に対する意見・提言等について 5 その他 6 閉会
資料	資料1 中野市行政改革推進委員会条例、委員名簿 資料2 第3次中野市行政改革集中改革プラン進捗管理シート（平成27年度実績報告） 資料3 行政改革、その他市政運営に対する意見・提言等（追加資料あり） （手持ち資料：集中改革プランの平成27年度実績詳細内訳資料）

1 開会 （総務部長）

2 副市長あいさつ

3 会長、副会長の互選について （仮議長：副市長）

会長に中野市区長会の下田委員、副会長に中野市母親クラブの小山委員が互選される。

4 会議事項 （議長：会長）

- (1) 第3次中野市行政改革集中改革プランの平成27年度実績について
- (2) 行政改革、その他市政運営に対する意見・提言等について

【会長】

それでは、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料2を説明）

【会長】

ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見等ございますか。

（特になし）

無いようですので、次に移ります。

会議事項(2)「行政改革、その他市政運営に対する意見・提言等について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料3を説明）

【会長】

ただいまの事務局の説明について、ご質問、ご意見等ございますか。

【委員】

会議事項(1)に対する意見に戻りますが、市民満足度が39.7%となっていますが、中野市行政改革推進委員会条例に社会経済情勢の多様化に対応し、より効率的な行政の推進を図るとある。集中改革プランを拝見すると、施設の解体や譲渡など縮減していくことが記載されている。そこで余った予算を違う目的に使っていく方向で検討されているか。

【総務部長】

市民満足度調査をさせていただき、結果としては39.7%という結果であります。それぞれ満足いただいていない項目については改善していかなければならないと考えています。ご指摘のとおり、各種施策で施設の削減をしていくという方向も出しているので、これについては人口減少による税収の減少、合併特例措置の収入減少が見込まれているので、市の歳入が長期財政計画で大幅に減少していくことから、今ある施設全部を維持していくことが大変になってくる。それだけの収入が確保できないことから、歳出も縮減していきたいことで、施設自体を削減していくことを検討させていただいている。それらがどのくらい実行できるのか、また、市民の皆様から不満をいただいている項目については、どれくらいそこに投資していけるのかを一緒に検討していかなければならないと考えている。施設の維持管理経費が掛かっていくものについては、延床面積で施設全体の20%を目標として削減を計画しているところですが、まだ詳細にはまとまっていないので、市民満足度の結果も参考に、投資していく部分と削減していく部分とを明確にしていかなければいけないと考えています。

【委員】

社会情勢はあると思うが、これからの若者や後継者の方に住んでもらい、夢を持てるような、お金が掛かってもプラスが出ると思う。それはやり方だと思う。若者に来てもらわないとこれからは成り立たなくなる。若者の意見を聞いたり、どこにでもない新しいものを作るとかを考えて取り組んで欲しい。

【会長】

その他、ご意見等ありますでしょうか。

【委員】

反対の意見になってしまいましたが、極端な人口減少を考慮すれば、不要なものはどんどん潰していったって、これも大事だと考えてはいけないと思う。潰したから新しいものが必要だとは思わない。これだけ高齢化が進んでいるので、施設を廃止することは大変なことと察するが、是非進めてほしい。

市民満足度調査について、回収率が40%程度しかないので、調査そのものは不要であると思うので、辞める方向で検討いただきたい。

消防コミュニティセンターについて、中野市の消防団はガタガタしていて、どうにもならないという噂も聞いている。現状は、災害に対応できる状況でないと感じている。災害時は消防団だけでは対応できないので、市も人員削減や新しい方法を示していただければと思う。

勤労青少年ホームや働く婦人の家についてですが、平成27年度利用団体数で、勤労青少年ホームが1,139団体、働く婦人の家が1,967団体となっており、本当にこれほどまで

の団体数があるのか。また、利用者の方たちがこの場を必要と感じて使用しているのか疑問に感じている。

農業振興、都市振興、中心市街地活性化など、市ではどうしていくかということをお願いしたい。天皇陛下が訪問された高野辰之記念館、市のシンボリックな山である高社山、市長もおっしゃっているきのこや果樹など、どのようにしていきたいのか意見を聞きたい。

また、行政改革を進めるにあたり、市で作成された集中改革プランをどういう気持ちで作成されたのかお尋ねする。

【会長】

ご意見として4点ほどあったかと思います。それぞれについてご説明をお願いします。

【総務部長】

集中改革プランの位置づけですが、市の将来を見据え、優先的に取り組むべき事項を明確化して、皆様にお示ししながらそれぞれの目標に対して、PDCAサイクルに基づき推進しています。

施設の大幅な削減についてですが、前段でご説明したとおり、歳入減少の中、歳出も縮減していきたい。ただ、中野市も人口減少の中ではありますが、昨年に中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定して、4つの基本目標を立てて、それぞれ市の強みを活かしながら、若い世代に地域に住んでもらう、移住してもらい、子育てしやすい地域の実現など各種施策を進めて地域活性化を図っていききたいと考えています。

【消防部長】

市の消防団がガタガタではないかという指摘ではありますが、全団員1,131名おります。団員の中には、就労形態の多様化によって約7割の団員が勤め人になっています。中々、地区の中で仕事をしながら活動をしていただいている方は少なくなっており、半数以上が中野市外に就労されている状況ですのでご理解をいただきたい。ただ、夜になれば地元に戻ってこられますし、大雨等の情報は気象庁からインターネットで提供されているので、団長以下、団員に対して準備するような体制を取っております。消防コミュニティセンターの集約については、消防団活動の重要拠点であるので、軽々な集約でなく慎重に検討しているところであります。

【経済部長】

勤労青少年ホームと働く婦人の家の利用者についてですが、延べ利用団体数となっています。勤労青少年ホームで登録されているサークル等は4団体、その4団体が繰り返し使用されていますので、延べで1,139団体となります。働く婦人の家も同様でありまして、現時点で利用者の会に加入されているサークルが28団体ほどあり、延べ使用でカ

ウントすると1,967団体となります。

商業振興に対しご提言いただきましたが、豊かな農産物はある、それらを活用してお客様を呼び込みたいと常々申し上げてます。ただ、農協を通して売るだけではそれだけになってしまいますので、農産物を加工するなり、市内の若者3団体を中心にしてイベントを開催し、農産物をPRしていくことを市でも応援してます。農産物の生産・出荷だけでなく、それら農産物を利用してお客様を呼び込む施策を講じていなければ、他の観光地と同じことをやってもいけないので、様々な支援を推進しています。

高社山をどう考えるかについてですが、中野市だけではないですが、シンボリックな山であります。市民の中でも誘客に取り組んでおられる方々もいられるので、市としてもバックアップしながら、高社山に人を集められるような取り組みをしていきたいと考えています。

【委員】

考え方の違いがあるので、こうなさいと申し上げるつもりはありません。

消防団の今後の在り方、高社山の活用など、市でも本腰をあげて検討いただきたい。

【委員】

市が計画を立てて何かをやろうというと、市民の皆様は言葉では立派なことを言うけれど、協力しない人が多いと思う。市職員のこともあるが、中野市民だけではないが、まともろう、協力しようという方が少ない。批判はするが、協力しない。職員の意識改革をこれまで言ってきたが、市民の意識改革も必要である。

【会長】

意見として承ります。会議事項についての質疑を踏まえてますので、ご理解をお願いします。

【委員】

市民満足度調査について、平成27年度実績が39.7%、平成26年度実績が44.1%と結果だけみると後退ということになっている。26年度実績が出た時の総括で、事務事業マネジメントシートというのがホームページに掲載されてまして、それを見たところ、満足度の低い項目について分析を行い、改善に向けたPDCAサイクルを構築する必要があると総括コメントされていた。どういう分析をしてPDCAを回しているのか。

また、これを毎年実施する必要があるのか。満足度の低い項目について時間をかけて、じっくり取り組んで、3年に1度くらいで調査をしてみる。毎年実施となると、お金も掛かることだと思うので、意識を変えて満足度を向上させていくことに集中していったらいいのではないかと。28年度の取組予定を見ても、調査をすることが目的となっていて、あくまでも調査は手段であって、目的は市民意見を反映した施策を展開していくことに

なろうかと思うので、そのような取組としていただけたらと思う。

【政策情報課長】

貴重なご意見をいただきました。調査は目的ではありません。満足度については、様々な細かな施策について調査していますが、よく分析して満足度の高い施策、低い施策があります。事務事業マネジメントでは400を超える事業のチェックをしているので、こちらと連動して強弱をつけた施策を実施していきたいと考えています。

【委員】

本日の資料とは直接関係ないですが、先日の新聞記事に掲載されていましたが、国が地方創生推進交付金に申請すると市町村に財源を交付すると書かれていた。1回目が申請が低調だということだが、県内19市の内申請したのが11市。中野市は申請しなかったと認識しているが、隣の飯山市や長野市、松本市、上田市と申請されていたと記憶している。中野市が何故申請しなかったのかご説明いただきたい。

【総務部長】

昨年から繰り越して行っている事業は引き続き実施している。本年度も推進交付金を活用した事業を取り組もうと、現在調整中であります。集計時には中野市は入っていなかった状況でして、推進交付金の対象となる事業を詰めている段階であります。

【委員】

消防団コミュニティセンターの集約化に関わる問題の中で、消防団員が少ないことに通じるかと思いますが、今住んでいる区でも世帯数では大きな区になるが、ほとんどが勤め人の地域であり消防団のなり手が無い状況です。区としての工夫ですが、毎月の区民清掃終了後に消防団の方々が区民対象に防火訓練をしてくれている。区から火災を出さないという意識から非常に有難い取り組みであり評価している。また、団員の確保は課題ではありますが、区が協力して、区民対象の防災ウォークラリーというのを実施しており、消火栓や機具の置かれた場所の確認や防災の勉強をして、区民全員で防災に対し取り組んでいる。何かの役に立つかと思うので紹介させていただく。

子育て支援についてですが、子どもを保育園等に預けていても病気等をすると帰されてしまい、働くことができない母親がいる。この頃、北信病院の一角に病児保育施設を立ち上げていただきましたが、安心して子供を預けながら働いている方々のお話を聞く機会がありましたが、非常に良い取り組みだと思った。

資料3にもありますが、テニスコートなどのスポーツ施設の草や害虫等の問題があっ

て困っているという意見を聞く。先日、テレビで拝見したのですが、他県では市民が気付いたところをスマホで撮影して、市役所にその場所を送信すると誰でも見ることができるという取り組みがされていた。市民の協力と情報によって迅速に対応できるアイデ

アだと感じたので、中野市でも取り入れられれば、行政だけに任せるのではなく、市民参加の上での改革になる事業かと思う。

障がい者ボランティアを長年やっていますが、様々な障がいを持った方がおられますが、障がい者が安心して専門家等に相談できるような憩いの場や体制を取っていただきたい。県外に視察に行くと、大きな事業所に障がい者を雇用し、同じ立場で同じ給料を出している企業があったりする。中野市にはまだ無いですが、障がい者でも就職活動など積極的にやっている方もいるので、行政や事業者等が協力して障がい者の自立支援に向けた取り組みが進めばいいと思います。

【会長】

4点ほどご意見がありましたので、説明をお願いします。

【消防部長】

区などの活動には消防団も協力するよう周知して参ります。災害が多く発生している中で、災害を最小に留めるには消防団や消防署もそうですが、自主防災組織といった地域の皆様の協力が不可欠であるので、区の中でも一生懸命取り組んでいる地域もあるので、一緒にやっていければと思います。

【くらしと文化部長】

スポーツ施設ですが、テニスコートの維持管理はこれまでも修繕等を実施しておりますが、専門業者にも相談しながら検討している段階です。害虫の駆除に関しては、指定管理者にやっていただいておりますが、タイミングによっては迅速に対応できていない状況もあります。一昨年のマイマイガの大量発生の際は市や指定管理者が連携して駆除を実施してきていますが、今後も利用者に不便ないように対応して参ります。

【子ども部長】

病児・病後児保育についてですが、必要性を鑑み北信病院の敷地内に施設を設置しました。管理運営については北信病院に委託をして実施しておりますが、定員6名、原則1週間程度お預かりするとして運営しています。また、私立ひよこ保育園に病児ではないですが、病後児保育として開設しています。定員5名、同じく1週間程度お預かりするとして運営しています。

【健康福祉部長】

ボランティアについては、地域福祉の推進には欠かせないことから、地域支え合いボランティア実践塾を実施するなど、社会福祉協議会においてボランティアの養成に努めています。市としてはその重要性に鑑み、事業費の助成を行っています。今後、更にその重要性は増してくると思われますので、社会福祉協議会と連携し、誰でも気軽にボラ

ンティアに参加できるよう、その環境づくりに努めて参りたいと考えています。

【委員】

合併して11年が経ちましたが、全国でも長野県でも中野市でも人口が減少して過疎と言われる地域が増えてきている。豊田地区でも顕著に表れており、一人暮らしの家が無くなり、人がいなくなり、商店が無くなって、高齢者が買い物にも行けないと、目を覆うばかりである。この先、話をされている小学校統廃合がされれば、豊田地区に住む人がいなくなってしまうのではないかと危惧している。給食センターの集約化についても、これまでの委員会で申し上げてきたが、豊田給食センターは小さくも意味合いのある施設だと思っている。ふるさとファームが絶えず食材を供給し、地域の子供たちのためにということでやられている。28年度はどこへ移管するかを検討をするとなっているが、小学校統廃合方針案だと校舎の一部になるとなっている。

現在、豊田地区あり方検討会というのを作って、市民、保護者等にアンケートを取って集計したものを、教育委員会にも提出してある。9月の方針決定ということですが、同じ統合でも時間をかけてやって欲しいという結果でありました。意見が集約されていない段階で決定されるのは残念ではない。

様々な事業の方針を決定するに期間が短く、市役所の新庁舎、小学校統廃合など、住民との合意形成が上手く取れての決定だったのかと非常にあやふやな部分がある。この辺をしっかりとしないと、一方的にナタを振られることは住民にとって残念なことと思っている。どのようにお考えになっているか聞きたい。

【教育次長】

小学校統廃合、給食センター集約化についてですが、時間をかけるというお話もありますが、これまでも時間をかけてやってきたつもりでおります。ご意見のとおり、意見集約されていない部分や、住民との協議の場が欲しいなど様々な意見がありますが、その辺はご理解をいただきながら進めていきたいという点と、豊田給食センターについてですが、ふるさとファームから食材を提供していただいているので、集約化ということではありますが、まだ方向性は定まっていません。もし、豊田給食センターが集約された場合でも、食材は豊田地域には提供しながら運営できるような体制を整えたいと考えている。豊田地区あり方検討会からの意見については、集約する中で反映できるもの、参考になるものについては、十分対応していきたい。

【委員】

昨年の6月に出された意見が11月に決定、それ以降、修正案が出されて、9月に決定する予定となっている。それについて、会として検討しようということをしているが、決定時期が近いもので意見集約がしきれない部分がある。実際、どうなるのかということを理解しえない方が沢山いる。これからの合意形成に余裕を持ちながら、地域住民の

様々な意見を聞かれた中での決定であってほしい。

【会長】

今の意見について、回答をお願いします。

【副市長】

小中学校統廃合についてですが、教育委員会と市長・副市長が入った総合教育会議もさせていただき、教育全体について検討させていただいている。施設を少なくするから、子ども達を別の学校に移ってくださいという意見は一つも無い。ただ、今いる子ども達が少ない学校では3人しかいない。他の学校でも5人とかのクラスが出てくるので、そのことについてどうしようということでも話をさせていただいている。

平成23、24年の2年間にわたって、地域の方に、小中学校についてこんなことをしていきますと説明に伺った。6年間については住民登録されているので数字が出てくるので、これから子ども達は少なくなってくると話をした。その際は、事情は分かったよと、今度は教育委員会の案を持って説明に来いよということで、審議会を作って、2年審議をし、答申をもらった後、その答申に基づいて教育委員会で案を作って説明をしてきた。実際は平成23年からさせていただいていた。ただ、時間が少ないというご意見は聞いている。

中には、直ぐにでも出来るよねと言われることもある。現在、1クラス3人・4人の子ども達にとって、今1年生だが、そんなに先にいったら卒業してしまうよという意見もある。だから待ってられないのだと、すぐやれという方もいられる。それぞれ意見を出し合って9月にはまとめていきたいと、待ってられない状況もあるということもご理解いただきたい。

市全体ですが、人口減少は全国的な問題ですが、地方創生により努力させていただいている。市民の皆様のご協力やご意見をいただき、明るい中野市にさせていただければと思う。

市民との合意形成については、これでいいということは無いと思うが、市民の皆様と懇談をし、努力させていただいているが、もし足りないということであれば、出来る方法があれば進めさせていただきたい。

【委員】

実際は時間をかけているとの説明でしたが、教育委員会はずっと検討してこられたかもしれないが、中身が分からない状態で住民はどうしようもない。そういう中での議論が少ない中で合意形成が取れない。早く意見を出していただき、今年の9月に決定するのであれば、仮に2年なり3年前に出してもらえれば時間は取れた。これからの市政運営についても、そういう合意形成を取っていただきたい。

【副市長】

それぞれの案件については、その都度にさせていただいております。

【委員】

行政の中でも、全体を見て、長期的な視点で検討し、判断していただかないと、その都度と言えば、これは賛成、これは反対ということになってしまいます。長期的、総合的にそれぞれの事業を検討いただければと思う。これは要望です。

5 その他

- ・第3次中野市行政改革集中改革プランについては市公式ホームページで公表する。
- ・次回の委員会では、集中改革プラン平成28年度中間点検をお願いする。
- ・現委員の任期が平成28年10月29日までとなっているため、新たな委員選考についてはご協力をお願いする。

6 閉会 （下田会長）

終了 15時58分